

長泉寺だより

真言宗 薬園山長泉寺

〒700-0807
岡山市北区南方3丁目10番40号
TEL(086)223-7450
FAX(086)221-0302
振込 岡山 01250-6-6418
ホームページ: www.chosenji.net

第 300 号



境内はセミの大合唱。夏休み、近所の子どもたちが虫取りアミを持って境内に集った頃が懐かしい。

現在は、「ポケモンGO」というゲームをする人がスマホオ片手によく来るようになった。山門を携帯のカメラで写せば、ゲームの中のモンスターを捕獲できるアイテムが入手できるらしい。いつの時代も人間は「狩猟採集」が好きだなあ、と。熱中しすぎて周りが見えなくなり、交通事故が多発！とも。特に子どもが危ない。くれぐれも気をつけて欲しい。

おそらく人間の本能なのだろう。農耕が始まる石器時代以前、人類は狩猟採集で暮らしていた。

「スマホ熱中症」にご注意

ひともし

た。その記憶が私たちのDNAに潜在していて、無意識のうちにそれが働いている。

そもそも仏教は、そういった「無意識」を意識する宗教だ。無意識を分析し理解することで、自己の本性を知る。主体である「自」がわかれば客体である「他」もわかる。結果、周りがよく観えるようになる。

どうかどうか、スマホゲームによる交通事故などが起きませんように。バーチャルな世界で遊んでいても、生きているのはリアルな世界だということを忘れないで下さいね。
(龍)

ご先祖・万霊供養

8月20日(土)

おせがき行

広島県神石高原町 長命密寺 参拝

世羅高原



塔婆申込み 一基 1000円

詳しくは別紙申込用紙にて

『いづみ』は心の処方箋

仁和寺執行 御室派教学部長 八木 恵 生

備前の名刹薬園山長泉寺の荘厳な諸堂伽藍が、一点の隙もない整備されたたたずまいと境内の緑陰のかもしれない清澄な雰囲気の中には、名誉住職光研師・現住職龍門師の日々の精進による隠れた参拝者への配慮が宿されているのであります。

光研僧正は、行持綿密にして学識も高く、加えて和氣靄然たる風儀を備えておられます。又、寺檀和合の功を上げられ地域社会の為に励まれ、それらに對し清々しいお人柄とご人徳で寄与されているのであります。

更に、宗門の興望を荷って平成十四年より仁和寺執行・御室派教学部長の任に就かれ、明るく平易な教学を展開してこられました。

龍門僧正は、このような師僧のお心を受け継がれ、特に平成二十六年十月に地元青年教師会と結集して、真言密教の最尊無比

の教法・法儀であり、教相、事相、布教道の三つが一体に融合されるといわれる結縁灌頂を開筵され、多くの檀信徒を教化し、大師の慈徳を現世に活かされました。

併せて、昨年五月十四日に厳修された高野山開創千二百年記念大法会仁和寺担当法会に和讃会、ゴスペラーズを引率下さり、法要終了後の退堂の折に『いろは歌等』を唱和して花を添えていただきました。導師職衆諸役人が感涙にむせびながら法悦歡喜の還列となりました。

そういった貴山教化伝導の根幹をなすのが、文書布教長泉寺だより『いづみ』であります。昭和四十三年より創刊され、五十年間にわたり刊行して、この度記念の三百号をめでたく迎えられました。心から敬意を表すると共にお慶び申し上げます。

おおよそ、寺だよりとは「安心」を説くものであります。それは「菩提寺と檀信徒を

信心で結びつける」ことを基本に発行されるもので、心の失われた今の時代に、豊かな心、ゆとりの心を持って現世を生き抜くことの大切さを、いわば心の処方箋として説かれているのであります。更に定期発行することによりその効果が上がるといいます。

『いづみ』の内容を紐解くと、仏典の教え、大師の教学、仏教行事、御詠歌、合唱団、御室派華道、書の会、写経会、団参、寺子屋文化講座等々、実に多種多彩であります。

このような、細かい気配りと努力によって檀信徒から信頼され、期待されて教導感化されますことを念じつつ、粗筆を置くことに致します。

清和の賀 祖師みそなはし 五十年

稽首

お寺と檀信徒の皆さんをつなぐ『いづみ』が三〇〇号を迎えました。創刊は昭和43年。先代がちょうど今のわたしほどの歳の時、当時はまだタイプライターで、ガチャンガチャンと夜な夜な作業をしていたと聞いています。先代は、高野山大学在籍時に(株)高野山出版社でアルバイトをしていた

た経験があり、得意の文章創り、紙面創りのノウハウを活かして

『いづみ』の発行を続けて来ました。パソコンが普及した今と比べると、創刊当時は大変だっただろうなと思います。

ここ十年ほどはわたしと二人で執筆を行い、年に八〜九回の発行が可能になりました。手前みそですが、こんなに頻繁にお

寺便りを発行しているお寺も少ないと思います。檀信徒の中には、普段はなかなかお寺に来られない方も多いので、そういった方にとってお寺便りは貴重な存在です。お寺の行事や活動などを知っていただける唯一の手段であり、その故に作り手としても力が入ります。

お寺たより『いづみ』

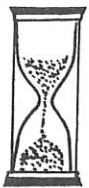
三〇〇号刊行にあたり

龍 門

近年は「お寺」という存在に對して、あまり良いイメージを持つておられない方が多いのが現実です。原因はいろいろありますが、中でも「お寺が何をしているのかわからない」ということが一番だろうと思います。

「お布施は何に使われるのだから？」、「お寺って普段何をやっているのだろうか？」、「住職ってどういう人だろうか？」、そういう疑問に答えているのがお寺便りであり、言わば「お寺と檀信徒の皆さんとの信頼関係を築く(言い過ぎ?) もの」だと思っています。

これから継続して発行してまいります。ご意見やアドバイスなどがありましたら、ぜひお気軽にお聞かせください。



ボランティア基金便り

28年8月号

2/21～3/20の期間、及びお名前が漏れていた方の補足をさせていただきます。大変失礼とご迷惑をお掛けいたしました。以後、記入漏れがないように気を付けたいと思います。

尚、熊本地震に関して30万円をAMD Aを通じて寄付しましたので併せてご報告致します。

・東日本大震災緊急救援募金

国末宏一、大熊峯子、長江志摩子、朝森喜久子、山田紀香、高見晴人、藤原久子、綾野富美子 以上8名

・ボランティア基金

森上裕之、長江志摩子、マクグラス、マクグラス・イアン、藤井朋恵、新和子、朝森喜久子、山田紀香、藤原久子、大熊峯子、綾野富美子、石村庄右、長江志摩子 以上13名(順不同)

「いづみ」発行300号によせて

長泉寺総代長 岩見 徹

盛夏の季節となりましたが、長泉寺檀信徒の皆様方には、平素からお寺のことにつきま

して格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「いづみ」発行300号まことにめでとう

ございます。どのような経緯で「いづみ」が発刊されたのかお伺いしたことはござい

ませんが、私の想像では、昭和41年に光研名誉住

職が長泉寺に着任され、お寺と檀信徒のあり方について思いを巡らしていく中で、双方が情報や価値観を共有することが重要であるとの考えに至り、その手段のひとつとしてお寺だよりの発行につながったのではないで

しょうか。調べてみますと、昭和43年8月に寺報、長泉寺だよりの「いづみ」が創刊され、その後、平成3年6

月に1000号、16年2月に2000号と回を重ね、いよいよ今回300号という節目を迎えることになりました。

その長い年月の間には、中興400年祭、開山500年祭と龍門住職の晋山式など大きな行事もございましたが、無事に執り行うことができました。これもお寺と檀信徒の団結した思いが一つに重なってなし得たことですが、その中で両者をつなぎとめた「いづみ」も大きな役割を果たしたことは異論ないものと思われ

ます。私ごとで恐縮ですが、母はお寺から送られてくる「いづみ」をとて

ても楽しみにしていて、いつも長い時間をかけて読んでいました。そんな母も5年前に他界しましたが、今でも「いづみ」が届くと母のことを懐かしく思い起こすことが

ございます。これからもお寺と檀信徒をつなぐ大切な懸け橋として、400号、500号を目指して回を重ねていただ

きたいと思

います。

私が長泉寺に赴任してから、早いもので2年が経ちました。この期間、長泉寺について私が思った事。それは、宗教法人の大原則である「自利利他」の精神に則って、活動している寺院であるということです。この「いづみ」も、その表れではないかと思

います。

昭和43年に創刊して以来、お寺で行われた行事の丁寧な記事、住職の思い等、檀信徒に発信し続けて300号。一口に300号とい

っても、これだけ続けるということがいかに大変だったか。現在、私自身が、「いづみ」発行のお手伝いをさせて頂いているからこそ、身に染みてわかります。

中村 宥海

光研名誉住職から、現龍門住職にバトンタッチして続いている「ひともし」。檀信徒の皆様が、毎号楽しみにしていますと、私がお参りに行くと嬉しそうに話して下さる方が多数おられます。そういった声を耳にするたびに、コツコツ続けていくという基本的なことが、いかに大切かと再認識させてくれます。

これからも、檀信徒によりそい、檀信徒の事を思い、檀信徒と共に歩んでいくお寺であってほしいと思

特別寄稿

「恩」はいつ始まりいつ終わるのか！

今年も田植えの時期が到来。今までは見て通る。今は、田植えの準備。数年後に此の田んぼは・・・いつものように法事に出かけ、お勤めの後、家族親類縁者と語りながらの食事。

今年も田植えが終わり、秋には黄金の収穫。先祖の伝えてくれた此の家の田地田畑を大切に守っていききたいものだ。法事に帰郷した後継も、「定年したら頑張るぞ 親父」安心安心。その後、介護もままならぬ様子・・・・・・

今日は、父の葬儀大変お世話になりました・・・・。これから、田舎に帰られて家督を継ぎ、お父さんの気持ちを大切に受け継いでいただきたいと思います。

そして、満中陰・納骨。有難う御座いました。来年の一周忌には宜敷お願い致します。

数日経つと兄弟姉妹が来山。何と、長男がお骨を今住んでいるところに持って行き、そちらで法要をしたいと言っている。田んぼや機械は処分し、私たちのまいるところも無くなり、途方に暮れている。和尚さん・・・家を守り、地域を守ってきた父の思いは一瞬にして納骨と共に葬られた。

親類縁者、兄弟姉妹は、あきれかえる。これが、今を生きている人の社会に隠されたありのまま。

自分をこの世に生み出し育んでくれた父母の恩。厳しくもあり優しくもある生きとし生けるものこと世間様の恩。これらの恩を心に深く感じ大切にしたいものである。

真言宗御室派
備前宗務支所長
普門院（赤磐市）住職
幡山 寛念



■ 長泉寺月次行事 ■

毎月8日午前9時

〃 21 日 〃

〃 28 日 〃

本尊薬師如来 縁日法会
宗祖弘法大師 縁日法会
必生火天不動明王護摩供

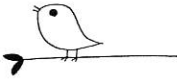
白須賀観音夏祭り

7月17日、除災招福を祈念する「白須賀観音護摩供」夏まつり。今年は気候も良く、例年よりもたくさんの子供たち、人々が集い賑やかなお祭りとなりました。

準備、片付け等のお世話をして頂きました方々、そして、ご参拝して頂きました皆さま、ありがとうございました。

【奉納】

- ・長泉寺御詠歌会
(御詠歌)
Naga
- ・(長泉寺合唱団)
- ・松原徹さん (歌)
- ・吉備人 (うらじゃ)
- ・蝦名宇摩さん親子
(津軽三味線)



ますます充実

寺子屋文化講座

第7回

7月25日、第7回目となる寺子屋文化講座が長泉寺本堂で行われ、「桃太郎と岡山の昔話」というテーマのもと、日本民話の会会長の立石憲利さんが講演下さいました。

岡山発祥の桃太郎についてだけでなく、その他、岡山に伝わるいろいろな民話を紹介していただきました。皆さん、興味深く先生の話に聞き入っていました。(来場50名)



平成二十八年 度

「総代会総会」開催報告

六月二十八日、長泉寺総代会は平成二十八年 度総会を開催し、昨年度の活動および決算報告、また今年度の活動方針とその内容について審議、承認がなされました。

特に、改選期となった今回は、第十三期副総代長であった浅尾宗治氏（伊福町）が退任され、新たに渡邊進氏（南方）が副総代長に就任、監査役の金田勉氏（内山下）が総代に就任されました。また、監査役には、新たに田口誠氏（奥田西町）が就任されました。

浅尾宗治氏は、平成十五年より十四年間にわたり総代を勤め、各事業における事務役を積極的になされました。その献身的なお働きには、関わった多

くの方が感謝されていることと思います。お寺としても心より敬意とご慰労を申し上げる次第です。

◇◇第十四期総代会◇◇

総代長	岩見徹（谷万成）
副総代	渡邊進（南方）
総代	丸山惣一（竹田）
〃	大西健一（湊）
〃	金田勉（内山下）
会計	松成竹夫（富町）
監査役	安宅敬祐（広瀬町）
〃	田口誠（奥田西町）

四国逆打遍路

第四回目が無事終了

長泉寺杖心会は、表題の遍路行を七月十日に実施し、第六十九番観音寺から六十五番三角寺をお参りしました（参加三十二名）。

今回は九月四日、第六十四番前神寺から六十番横峰寺を参拝します（申込み締め切り済）。



Nagaメンバー募集!

昨年十一月に結成された長泉寺合唱団「Naga（ナーガ）」が活躍しています。岡山県演奏家協会会長の佐々木英代先生にご指導をいただき、先日の「夏まつり」では『三六五日の紙飛行機』、『少年時代』、『涙そうそう』、『島唄』を披露。会場を盛り上げました。どなたもぜひ一緒に！お気軽にご参加ください。

月謝 ￥2,000
練習 第1・2・4月曜午前



今昔写真

上は現在の境内、下は今から三十五年前（昭和五十六年）の境内です。特に驚くのは、写真左方に見える楠（くすのき）の大きさですね（笑）。



第17回

平和の鐘を鳴らそう!!

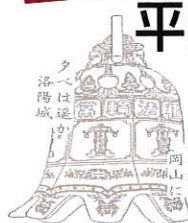
とき 8月15日（月）

11:40～13:30

ところ 長泉寺鐘楼門

参加無料

主催：岡山ユネスコ協会



8月16日（火）18:00～20:00

灯籠流し

灯籠一基 900円（前売）

1000円（当日）

主催：岡山市仏教会

場所：西川アイプラザ

檀信徒合同お盆総供養

とき：8月15日（月）午前9時

受付は8時30分からです

ところ：長泉寺本堂

貴家精霊のお位牌をご持参下さい